

音色を変えて弾く

- ① Fボタンセット“01 Standard”を選びます。 Fボタンメニュー



2つの楽器の音色を重ねる



- ③ 重ねる音色を選びます。
 音色を選んで弾く

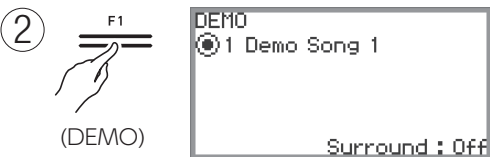
鍵盤の高音部と低音部で音色を変える



- ③ 鍵盤の低音部の音色を選びます。
 音色を選んで弾く

デモ演奏を聴く

- ① Fボタンセット“01 Standard”を選びます。
 Fボタンメニュー



デモ演奏が始まります。
● ボタンにタッチするたびに、デモ演奏が停止、または再開されます。



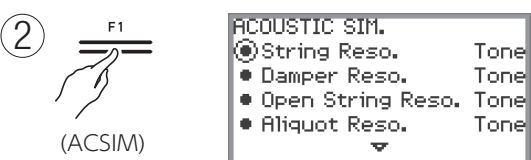
DEMOモードを終了します。

アコースティックシミュレーターを使う

アコースティックピアノ特有の、音の鳴り方のさまざまな特徴を、再現・調整することができます。

- スtringレゾナンス
- アリコートレゾナンス
- キーオフアクションノイズ
- ダンパーレゾナンス
- ダンパーノイズ
- オープンStringレゾナンス
- キーオンアクションノイズ

- ① Fボタンセット“09 Favorite Piano”を選びます。 Fボタンメニュー



手軽に演奏を録音／再生する (MIDIレコーダー)



- ② 演奏します。



録音が始まります。



録音を終了します。



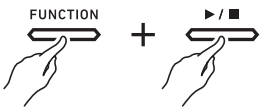
録音した演奏を再生します。

メモ

- 録音の初期設定はMIDIレコーダーです (演奏をMIDIデータで記録します)。MIC IN端子からの入力音声を含め、音声データをそのまま録音する、オーディオレコーダーに切り替えることもできます。
- 演奏した録音を再生すると、SONGモードに入ります。SONGモードでは、本体メモリーやUSBメモリーのMIDIデータ (SMF、CMF、MRP) やオーディオデータ (WAV、MP3) も再生できます。

メトロノームを鳴らす

- ① FUNCTIONボタンを押さえたまま、 ボタンにタッチします。



メトロノームがスタートします。
● 同じ操作でストップします。

メモ

- Fボタンセットが“01 Standard”のとき、F2 (METRO) にタッチします。テンポや、ガイドのタイプ (通常のメトロノームやドラムパターン) などを設定できます。



アルペジオを自動的に鳴らす (アルペジエーター)

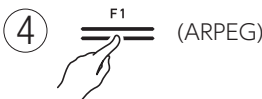
- ① Fボタンセット“12 Control”を選びます。
 Fボタンメニュー



- ③ 鍵盤で和音 (または単音) を押さえます。



アルペジオのパターンが鳴ります。



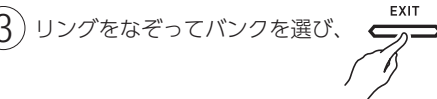
アルペジエーターを終了します。

演奏に使う設定を登録する・呼び出す (レジストレーション)

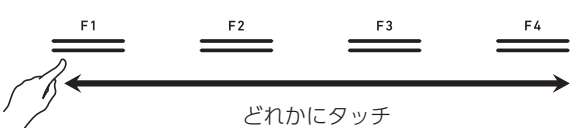
音色やエフェクトなどの設定状態を、96個 (24バンク×4エリア) まで登録できます。

レジストレーションに登録するには

- ① Fボタンセット“02 Regist Setting”を選びます。 Fボタンメニュー



- ⑤ 登録したいエリアを選びます。



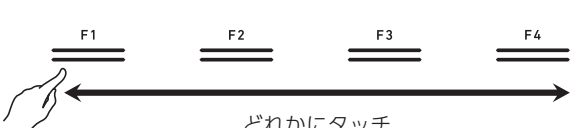
どれかにタッチ

- ⑥ リングの右 (YES) にタッチして、登録します。

レジストレーションから呼び出すには

- ① Fボタンセット“03 Registration”を選びます。 Fボタンメニュー

- ② 呼び出したいエリアを選びます。



- 現在選択されているバンク (01～24) のエリアが呼び出されます。

サウンドモードを使う

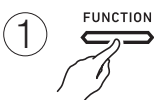
サウンドモードは、本機からの出力音に、下記2つの効果をかける機能です。

ホールシミュレーター／リバーブ

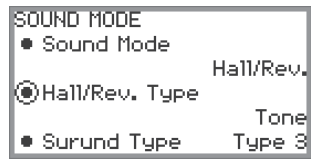
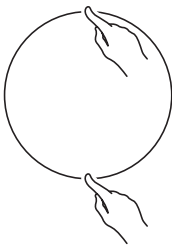
ホールシミュレーターとリバーブは、いずれも音に残響を付加するタイプのエフェクトです。音色にプリセットされたタイプ、コンサートホールの音響特性をシミュレートしたタイプ、空間の残響を再現するタイプの中から選択します。

サラウンド

本機のスピーカーからの出力音にサラウンド効果 (広がり効果) がかけられます。



- ② “SOUND” > “SOUND MODE”の順に選びます。



- ③ 画面表示に従って、各項目の設定を変更します。

Sound Mode	Off: オフ Hall/Rev.: ホールシミュレーター／リバーブだけ使う Surround: サラウンドだけ使う Hall/Rev. + Srnd: 両方使う
Hall/Rev. Type	Tone: 音色ごとの初期設定 Salon～British Stadium: ホールシミュレーター Room 1～Stadium: リバーブ
Surround Type*	Type 1: 効果小 Type 2: 効果中 Type 3: 効果大

*選択されている音色や、再生するオーディオの特性によっては、効果が分かりにくい場合があります。



設定を終了します。

ミキサーを使う

パートごとの音量、ステレオ定位、エフェクトのかかり方を、細かく設定できます。

- ① Fボタンセット“04 Listening”を選びます。 Fボタンメニュー



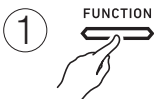
付属のワイヤレスMIDI & AUDIOアダプターを使う

本機に接続すると、次のことができます。詳しくは、弊社ウェブサイトの「取扱説明書」を参照してください。

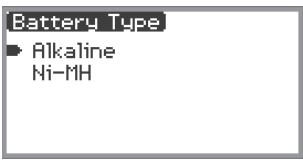
- Bluetooth接続したスマートデバイスの再生音を本機のスピーカーから鳴らす
- Bluetooth Low Energy MIDI接続して専用スマートデバイス用アプリを使う

電池の種類を選ぶ

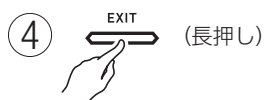
本機の電池ケースに入れた電池の種類に合わせて、電池の種類を選びます。



- ② “SYSTEM” > “Battery Type”の順に選びます。



- ③ リングの上、下にタッチして、電池の種類を選びます。



設定を終了します。

Alkaline: アルカリ乾電池
Ni-MH: 充電式ニッケル水素電池

- 電池だけで本機を使用しているときに、大きな音量で演奏や曲再生をすると、音が歪んで聞こえる場合があります。これは、ACアダプターと電池の違いによるもので、故障ではありません。音の歪みが気になる場合は、ACアダプターでご使用いただくか、音量を下げてください。

ピアノポジションを使う

本機を置く場所に応じた音響設定を選ぶことができます。

- ① Fボタンセット“04 Listening”を選びます。 Fボタンメニュー



実際の設置環境に応じて、お好みの音響設定を選択してください。

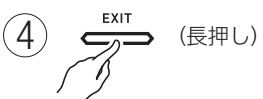
Standard: スタンドに設置する場合の標準的な設定

Wall: 壁ぎわに設置する場合を想定した設定

Center: 部屋の中央付近に設置する場合を想定した設定

Table: テーブルに設置する場合の標準的な設定

- ③ リングをなぞって、本機の設置場所に合う設定を選びます。

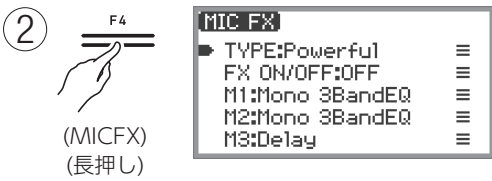


設定を終了します。

マイクエフェクトを使う

マイク入力音に対して、各種のエフェクトをかけることができます。

- ① Fボタンセット“05 Song Play”を選びます。
 Fボタンメニュー



- ④ リングをなぞって希望するエフェクトのタイプを選び、EXITにタッチします。

- ⑤ “FX ON/OFF: OFF”と表示されている場合は、ONに切り替えます。



設定を終了します。

本機を工場出荷時の状態に戻す

本機のデータや設定などシステムの内容をすべて初期化して、工場出荷時の状態に戻すことができます。



- ② “SYSTEM” > “Factory Reset”の順に選びます。



- ③ 本機を工場出荷時の状態に戻すにはリングの右 (YES)、中止するにはリングの左 (NO) にタッチします。

主な仕様

型式: PX-S7000BK/WE/HM

鍵盤: 88鍵

音響: アンプ出力: 8W×2+8W×2
スピーカー: 16cm×8cm (楕円形) ×4

電源: ACアダプター (AD-E24250LV)、単3形アルカリ乾電池または充電式ニッケル水素電池8本

消費電力: 24V ≒ 20W

サイズ: 本体+スタンド+譜面立て: 幅134.0×奥行44.9×高さ90.3cm

質量: 本体+スタンド+譜面立て: 約29.1kg (電池含まず)

ペダルコード長さ: 70cm

- 改良のため、仕様およびデザインの一部を、予告なく変更することがあります。

- 本書の一部または全部を無断で複写することは禁止されています。また個人としてご利用になるほかは、著作権法上、当社に無断では使用できませんのでご注意ください。
- 本書および本機の使用により生じた損失、逸失利益または第三者からのいかなる請求についても当社では一切その責任を負えませんので、あらかじめご了承ください。
- 本書の内容に関しては、将来予告なく変更することがあります。

■JIS C 61000-3-2適合品

本装置は、高調波電流規格「JIS C 61000-3-2」に適合しています。

定格表示は製品右側面のラベルに記載されています。

カシオ計算機株式会社

〒151-8543 東京都渋谷区本町1-6-2

MA2204-A Printed in China

© 2022 CASIO COMPUTER CO., LTD.